

## 編集者のことば

本号は、共同研究プロジェクト「大都市の地域経済構造と環境の保全・創造に関する総合的研究」の一環としての研究成果としてまとめられた8篇の論文と本研究所前客員研究員の投稿論文1篇から構成した。

まず、都市環境と景観評価に関する論文である。三谷豪ほか「多摩ニュータウン諏訪・永山地区における高齢者の分布とその住環境評価に関する研究」は、子供の独立といった家族構成の変化を中心に高齢化の進行過程を分析するとともに、諏訪・永山地区居住の高齢者による歩行空間からみた住環境評価とその内容を明らかにしたものである。

田中平八「環境景観に対する好悪感の規定因—認知モデルにもとづいた予測的評価法」は、「感性情報処理」の研究枠組みにより、景観の特徴を記述する8個の予測子 predictor を用いて景観の好悪感に関する評価を試み、好悪感の規定因を明らかにしようとしたものである。

市原茂ほか「町並みの景観評価に及ぼす色彩の影響について」は、コンピューターで写真を画像処理し、建物の色彩を変化させて、その印象をSD法により測定することにより、色彩を変化させた建物そのものの印象と、その建物が町並み全体に与える印象とを尋ねる方法により、町並み景観の評価を試みようとしたものである。

落合正宏ほか「大学が環境へ及ぼす影響」は、理工系学部の実験廃棄物の量的側面から、薬品、水道等の使用による実験が環境へ与える影響を考察したものである。

吉川徹「メッシュ当たりの同一辺数による土地利用の集塊性の分析手法」は、土地利用の集塊性をメッシュデータから分析する統計的手法を提案するとともに、土地利用構成比が異なる地域について比較分析する手法を提示したものである。

つぎに、都市家族の共同調査にもとづく3篇の研究論文である。いずれも東京都調布市に居住する比較的若年の既婚女性を対象とする調査票調査のデータにもとづいた分析を試みている。まず、野沢慎司「都市家族の夫婦関係とパーソナル・コミュニティ—妻の援助ネットワークと夫婦の絆—」は都市家族・コミュニティ状況の問題をとりあげ、とくに、夫婦間の援助関係と世帯外援助ネットワークとの関連に焦点をあてて分析し、ネットワークの一部が世帯外から夫婦関係を規定する力を失っていないことを示唆している。

ついで稲葉昭英「有配偶女性の心理的ディストレス」は、有配偶女性に抑うつといった心理的ディストレスを生み出す社会的メカニズムを明らかにしようとしたものである。とくに、夫の学歴効果等に注目し、それが低いほど妻に対するサポートが低く、このことが妻の心理的ディストレスを高める要因になっていることを指摘するとともに、アメリカにおける研究成果と比較してその含意を検討した論文である。

第三の、永井暁子「妻アイデンティティと夫婦関係」は、ライフステージの移行に伴う夫婦関係の変化をとりあげ、有配偶女性の妻アイデンティティの規定要因を明らかにしようとしたものである。とくに、妻アイデンティティの規定要因を母アイデンティティ及び夫婦アイデンティティのそれと比較分析して、妻アイデンティティを高める要因を指摘している。

さいごに、大家亮子「日仏の家賃補助制度についての考察」は、1993年度に創設された日本の特定賃貸住宅供給促進制度により導入された家賃対策補助制度を一種の家賃補助制度としてとらえ、その日本の制度とフランスの住宅手当制度との比較政策的考察を行ったものである。